

極て古代のおゝ僧坊の位階うゝと記又岩井
木埋めてあり古或女け井の水もて穢物を
洗ひれむと後水出ん所と云傳へり又海際
は靈臺とありそ所岩解ふあゝむと本を折
差ひて記方よりうてこ上ヶ野取名目抄に
出づる宝庫の畧を見るがあとと又そのあ
の石上は一字を建つと記ありて組合をそ家
抄本今に朽滅まり按るに後野取集に
岩世山とよこしはけあしとて又橋本の教
文ありはて者のうゝめに建つるや乳世の記

僧坊も位階して再建するもなく大野堂を
建つると思へり女麻村強あといふもの
古来より靈臺ありて領主より此所を
多下け靈臺理飽海あ郡の境とてあり標
示あり元禄十二年卯十二月霊理郡小砂
川村と女麻と郡境の境文を記した小古氏
唐田記は唐田領と佐利郡との境は関村と
といふ大なる誤なり関村は二郡の境に
立つる標示も二里餘下にあり

一 け急の古俗横死しつゝその阿れを塩城と